

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 観光は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

なし

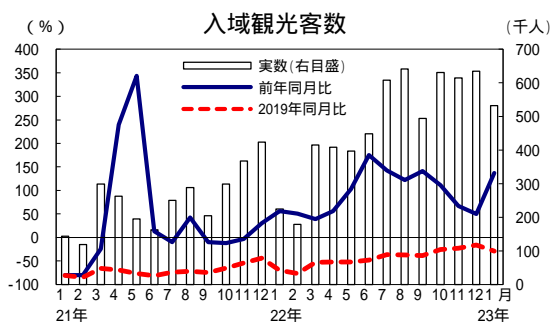
1. 観光の動向

観光は緩やかに持ち直している。

10 - 12 月期の入域観光客数は、前年同期比 72.4% 増 (2019 年同期比 21.8% 減) となった。国内客は 68.1% 増 (2019 年同期比 2.2% 増) となり、外国客は 47.6 千人 (同 92.2% 減) となった。月別で見ると、10 月は前年同月比 110.9% 増 (2019 年同月比 25.9% 減)、11 月は同 67.1% 増 (同 23.0% 減)、12 月は同 49.9% 増 (同 15.9% 減) となった。

2023 年 1 月は、前年同月比 137.0% 増 (2019 年同月比 29.4% 減) となった。

10 - 12 月期のホテル稼働率は、前年同期差 26.4%pt 増となった。



入域観光客数等の動向

	2022年			2023年
	4-6月	7-9月	10-12月	1月
入域観光客数 (千人)	1,254	1,743	1,881	532
(前年比、%)	102.1	134.5	72.4	137.0
国内観光客数 (千人)	1,254	1,743	1,833	487
(前年比、%)	102.1	134.5	68.1	117.0
国外観光客数 (千人)	0.0	0.1	47.6	44.8
(前年比、%)		皆増	皆増	皆増
ホテル稼働率 (%)	46.5	59.4	67.6	
(前年差、%pt)	24.4	34.4	26.4	

(備考) 1. 入域観光客数、国内観光客数、国外観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

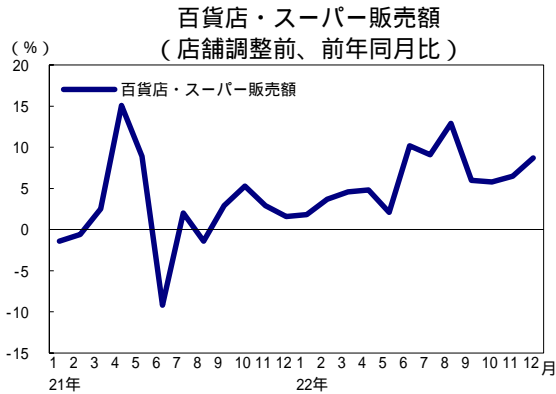
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12 月期は前期比 1.5% 減となった。月別にみると、10 月は前月比 0.4% 増、11 月は同 0.2% 増、12 月は同 1.4% 増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 7.1% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 5.8% 増、11 月は同 6.5% 増、12 月は同 8.7% 増となった。



	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.5	0.4	0.2	1.4
百貨店・スーパー(*2)	7.1	5.8	6.5	8.7
コンビニ(*2)	9.3	11.7	10.5	5.9
乗用車(*3)	19.0	21.2	8.1	28.9
(季節調整値)(*3)	18.9	12.1	3.5	18.3

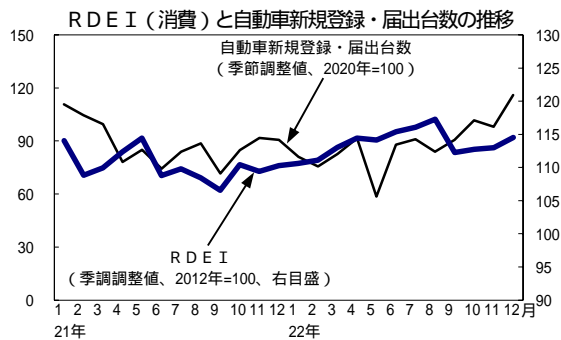
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)

コンビニは日本銀行那覇支店調べ

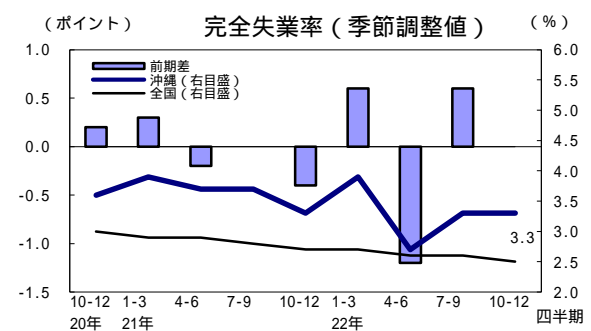
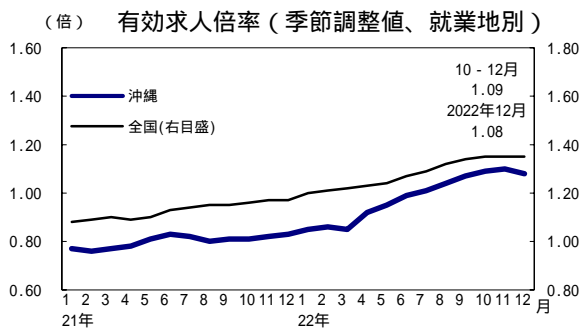
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

12. 沖縄

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	○	・個人旅行、出張手配なども徐々にではあるが販売量も増えて、回復傾向になっている（旅行代理店）。
		▲	・例年だと12月並みに入客があるが、今年は新型コロナウイルス感染症の第8波と、インフルエンザ流行が重なり、地元団体予約のキャンセルが相次ぎ、新型コロナウイルス感染症発生前の年の半分ぐらいしか入客が取れていない（その他飲食 [居酒屋]）。
		◎	・前年同月は行動制限により売上が低迷したが、本年はその反動で大きく伸長している。気温も低下し、衣料品の防寒物の動向やインバウンドも2019年比15%程度の戻りで底上げが図れている（百貨店）。
	企業 動向 関連	□	・以前から打合せしていた客が、最近の資材価格の高騰でなかなか契約に踏み切れない（建設業）。
		○	・今年になっても、観光土産、飲食等業務店向けの売上が順調に推移している（食料品製造業）。
		-	-
雇用 関連	○	・前年以上の求人があることと併せて、例年3月以降に説明会及び選考会を実施していた企業が、2月での説明会を希望し、随時選考試験を実施している状況がある。人手不足が著しいなか、早期で新卒学生を確保したいという気持ちの表れだとみている（学校 [専門学校]）。	
	□	・求人案件は増えているが、求職者の動きが鈍い（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント		○：1月初売りの来客数は新型コロナウイルス感染症発生前までとは言わないが確実に増えており、それに比例して新車成約台数も増えている（乗用車販売店）。 ▲：新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの影響で客の動きが弱い（一般レストラン）。	
先行き	家計 動向 関連	○	・先行きの受注状況は新型コロナウイルス感染症発生前の2019年を上回っており好調に推移している。国際線の再開によりインバウンド需要は著しく伸長している（その他サービス [レンタカー]）。
		□	・物価高騰の影響などもあり、多くの予算が掛かる住宅購入やマンション購入などには、慎重な態度が当面続くと予想される（住宅販売会社）。
	企業 動向 関連	□	・資材価格の高止まり及び価格転嫁の遅れにより利益率の低下が続いている（窯業土石業）。
		○	・先島地区の建設関連は、公共工事では石垣島の陸上自衛隊関連工事が順調だが、宮古島は端境期で少ない。与那国島は先に発注された大型の自衛隊工事が始まり、今後は期待される。民需については、宮古島、石垣島を中心に大型のホテル工事が進んでいる（輸送業）。
	雇用 関連	○	・これから3月から4月にかけてを求人数のピークとして予測している。また同様に、企業の採用活動に合わせて、求職者の応募も増えていくと予測している（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴 コメント		◎：新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変わる。また、1月10日より再開した全国旅行支援により、春休み、ゴールデンウィークと観光客が今以上に増える。以上2点の理由により、観光産業中心に県経済は回復していく（コンビニ）。 ○：沖縄は暖かくなるにつれ来客数も伸び、県整体的に景気は上向くとみている（衣料品専門店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（沖縄）の推移（季節調整値）

